

大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京農業大学
整 理 番 号	L-8
事 業 名	中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	
<p>本プログラムは、食・農・環境分野の実践的な専門家として、中南米地域で活躍できる開拓（開発）型グローバル人材の育成を目指し、食と農業に関わる活動を通じた貴学と中南米の農学系大学との既存の連携基盤の強化に加えて、地域の課題に対応した農学系インターンシップを含めた総合的実学教育プログラムを実施したものである。</p> <p>プログラム展開のうち、短期受入プログラムでは、各大学代表者による「食と農と環境を考える世界学生サミット（ISS）」への参加・発表、農村文化体験、日本の治水・灌漑を学ぶ専門性の高い受入プログラムなど多様な取組がなされた他、café形式による留学生と日本人学生の交流の場の提供などの工夫がなされている。長期受入プログラムにおいては、貴学卒業生や現地校友会等の協力等を得ながら学生の興味・関心に応じた多様な機関での農学系インターンシップが実現し、課題であった日本の大学で取得した単位が中南米の大学では認められにくいという点も、協定校との度重なる協議により4大学中3大学において単位認定がなされるなど、十分な実績をあげている。特に、本プログラム後半に受入学生数の実績が伸びたことは、海外相手大学における貴学の存在感が高まったことを窺わせるものである。また、学生チューター制度の活用や様々なレベルに対応した課外日本語プログラムの提供など、受入体制の充実に工夫がなされている。農業文化体験や農学関連施設見学を中心とした短期派遣・受入プログラムと、長期派遣・受入プログラムの交換留学を組み合わせることにより、制度上の違いを緩和する工夫がなされ、受入学生数が到達目標のほぼ2倍に達したことは評価できる。</p> <p>一方で、日本人学生の派遣に関しては、短期プログラムの単位認定や経済的支援等に取り組んだものの、派遣学生数が目標に到達しなかったことに関しては、学生への情報提供やプログラム運営面など、当初計画の見込み数等も含めてその要因を分析し、今後のプログラム展開に活かすべく対応が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	